

平成30年度 新居浜市保健センター運営委員会議事録

1 日 時 平成30年7月26日(木) 13:30~14:20

2 場 所 新居浜市保健センター3階 中会議室

3 出席者 山内・田所・宮下・加藤・近藤・江盛・白石・木俵・藤縄・藤田
亀井(伊達委員代理)

欠席者: 佐々木・伊達

事務局: 木戸・近藤・石見・宇野・渡辺・山之内・寺尾・黒川・山本

4 傍聴者 なし

5 会議内容

事務局(木戸) 只今から、平成30年度新居浜市保健センター運営委員会を開催いたします。

本日は、大変お暑い中、またお忙しい中を御出席いただきまして有難うございます。

本日は佐々木委員さん欠席のご連絡をいただいております。また伊達委員さんの代理として地域福祉課の亀井さんにご出席いただいております。

また、この会は、「新居浜市審議会等の公開に関する要綱」に基づき傍聴席を設けておりますが、本日の傍聴者はございません。

それでは、お手元の会次第にそって進めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

会に先立ちまして福祉部白石部長が御挨拶を申し上げます。

白石部長 (部長挨拶)

事務局(木戸) ありがとうございます。保健センター運営委員会委員は2年間という任期ですので新たに今年度から始まるということになります。本日が最初の会ということですので委員の皆様の自己紹介をお願いいたします。お手元の資料1ページ開いていただきまして左側に名簿がありますので名簿の順に添ってお願いしたいと思います。山内委員からお願いいたします。

各委員 (委員の自己紹介)

事務局(木戸) 続きまして事務局です

事務局 (事務局職員の自己紹介)

事務局(木戸) 続きまして保健センター運営委員会設置要綱第4条に基づきまして委員長及び副委員長の選出をお願いしたいと思います。

藤縄委員 事務局案はございませんか？

事務局(木戸) 事務局では、委員長には山内委員さん、副委員長には白石委員さんを

お願いしたいと考えております。いかがでしょうか？

(一同拍手)

ありがとうございます。委員長には山内委員さん、副委員長に白石委員さんが選出されました。前の席のほうにお移りください。

それでは山内委員長さんより就任のご挨拶をお願いいたします。

山内委員長

(委員長挨拶)

事務局(木戸)

ありがとうございました。それではここからは保健センター運営委員会設置要綱第5条2項にありますとおり、議事進行を山内委員長にお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

山内委員長

それでは、議題(1)平成29年度保健センター事業報告と議題(2)の平成30年度事業計画についてまとめて説明をお願いいたします。

事務局(近藤)

平成29年度実績及び、平成30年度保険センター事業計画についてご説明します。座って失礼します。まずお手元の会資料の訂正をお願いします。2ページ目の一番下の項目の産科医等確保支援事業の29年度実績3医療機関の904件を819件にご訂正ください。819件です。それと7ページの定期献血事業の右端の28年度を29年度に、9ページも同じく医療対策事業の右端28年度を29年度にご訂正ください。

(30年度計画及び29年度実績報告)

事務局(黒川)

(子育て世代包括支援センターについて)

事務局(渡辺)

(新居浜市自殺対策計画の策定について)

山内委員長

ありがとうございました。ただいまの説明につきまして、なにかご質問、ご意見ありますか？

加藤委員

細かい点なんですけど、電子母子手帳ですが、8月から運用開始ということで対象はどうなりますか？8月以降の出産の方が対象なのか、現在お子さんを持っていらっしゃる方にも活用していくのですか？

事務局(黒川)

全員です。

加藤委員

全員に希望を募って？

事務局(黒川)

自分でアプリをとっていただく形です。

加藤委員

自分で登録して、それを自分で見ていくということですね。

事務局(黒川)

そうですね、市政だよりの8月号にも特集を組んでおりまして、そのにもQRコードを載せておりまして、妊婦や乳幼児の保護者に活用していただけたらと思います。

加藤委員

前にも確認したのですが、従来の紙媒体の母子健康手帳と互換性とかはとくになくて医療機関には全く影響はないということですね。

事務局(黒川)

はい。妊婦や乳幼児の保護者が、アプリをとって、母子健康手帳と両方セットで、併用して活用していただくものになっています。

- 近藤委員 自殺対策の件ですが、毎年うつ病と自殺のことで話をさせていただいていますが、10年ほどで見ると新居浜市はやはりだいぶ減ってはいるのですか？自殺者数の点ではどうですか？
- 事務局（渡辺） 新居浜市の状況についてですが、平成25年度が36名と30名を超えて一番多かったです、それ以降は翌年26年度が21名、27年度が11名に減っています。28年度21名、29年度も確定値が21名となっています。30名前後から10名程は減ってはおりますが、来年も計画を立てて順次減少していくように、各年齢層に応じた適切な周知と事業ができればと考えております。
- 近藤委員 亡くなられた方の分析というのは、それなりにしてくださっていますが、どういう背景があったというのは比較的つかんでおられるのですか？
- 事務局（渡辺） はい、先ほど説明は省略させていただいたのですが、14ページのスケジュール上から3項目目にあります、地域自殺実態プロフィールといったところがあるのですが、こちらが国の自殺対策推進センターのほうで全ての県、市町村の分析をしてこの計画に反映できるように新居浜市もいただいております。こちらの表で公表不可というものもありますが、公表できる範囲で統計を活用させていただいて分析中ですので、背景等わかる範囲は公開いたします。
- 加藤委員 5ページのCOPDについてなんです、別計上していただいて、非常に良かったと思うのですが、29年度の740人（再掲）と書いていますが実績内容と今年は通年ってこととなっていますが、どういうことを予定されていらっしゃるのか教えていただきたいと思います
- 事務局（近藤） 29年度は市役所の本庁ロビー展示であったり、保健センターであったり、図書館で、市民の啓発のためのロビー展示等をさせていただきました。引き続き今年度も市民に広く知っていただくために展示等の啓発をしていきたいと考えております。
- 加藤委員 740人というのは何の実績ですか？
- 事務局（近藤） 再掲となっております、400人はその上の項目のお笑い健康ライブの時にさせていただいているということで、残りの340人が健康教室等で合わせて啓発させていただいた数となっております。
- 加藤委員 潜在患者さんがたいへん多い病気で、まだ本当に知られていない病気ですのでさらなる積極的なPRをお願いできたらと思います。検診の件なのですが、これはこちらの会議では発言をしたことがなかったかもしれないのですが、ピロリ菌検診ですね。別の会議では発言させていただいたことがありますが、やはり全国的にかなり注目を浴

びていて一度、市の担当の方からもお返事はいただいたことがあるのですが、近隣の市町村の動向を見ながらという、お返事をいただいたのですが、近隣の市町村に動きがあって西条市が始めました、松山市も始めています。従来の胃がん検診よりはるかに低コストで、効果の高い検診です。将来の新居浜市を背負う子供たちが胃がんになるのを予防することができるということで、非常に有効な手段だと思うのですが、近隣の状況が変わってきている中でですね、今の市のお考えを教えてくださいましたらと思います。

事務局（木戸） 一応ピロリ菌検診につきましては、加藤先生おっしゃられましたように西条市の取り組みがありましたし、松山市が今年度から取り組みをされていることは伺っております。新居浜市は国の在り方検討会、そちらのほうに基づいて、一応国できめられた指針に基づいての検診ということで、ピロリ菌については、まだ科学的根拠というか検診体制とかということができていないということもありますので、状況を見ながら検討するというので、今も状況は変わっておりません。

加藤委員 科学的根拠が乏しいという見解ですか？

事務局（木戸） それもありますし、それと国によって決められた指針に基づいて実施するというので、現在実施しておりますので、従来の胃がんの集団検診と、昨年度も運営委員会で説明させていただきました50歳以上の胃内視鏡検査ですね、そちらのほうの導入ということで今検討を進めておりますのでピロリ菌検査については現在実施する予定にはなっておりません。

加藤委員 ぜひ引き続き、科学的根拠はかなり揃ってきておりますので、積極的な導入の検討で、将来の新居浜市民を守っていただけたらと思います。

近藤委員 自殺についてなのですが、この会なのか、自殺対策推進協議会なのか悩むところなのですが、掘り下げられたらと思います。精神保健事業を見ても企業の方々への対処が少し少ないかなという気がしています。特に企業の中で働いておられて、パワハラを受けて抑うつになるとか、自殺になる、うつ病になるということがかなり多くて、とくに企業のトップの方とか管理者の方があまり理解のないところも多いようですのでこういう方々への働きかけというのを考えていただけたらなと思っております。なかなか難しいなと思いますが考えていただけたらと思います。

事務局（渡辺） 自殺対策推進協議会の中で検討していただきたいと思います。新居浜市の重点となっているところは、高齢者、生活困窮者、勤務・経営なので先生方からご意見を協議会でいただき検討したいと思います。

- 近藤委員 母子保健相談事業ですが、うちに来ている患者さんが妊娠すると、ハイリスク妊婦になると思いますが、県立病院に行かれて、そのあと愛大に行かれて県立病院に帰ってくるという流れになるのですが、県立病院の保健師さんが薬について相談されることがあると思うのですが、薬に対して否定的になられると、不安を覚える方がいて、子どもさんのことや妊娠がうまくいくことを考えると薬は欠かせない、というところなのに、薬に不信感を感じている。せっかく薬は飲みましようと言っているのに・・・
- 事務局（木戸） 県立病院との連携は市としてどう考えているのでしょうか？
- 近藤委員 県立病院との連携につきましては、特にハイリスク妊婦さんの件ですが、妊婦連絡票で連携をとっています。フォローが必要なケースについては、本人の同意が得られている場合と得られていない場合がありますので、同意が得られていない場合は、情報に十分配慮して支援につなげています。
- 事務局（木戸） また、薬の件につきましては、医師の判断の分野ということになりますので、市の保健師につきましては、医師の判断に従い、妊婦さんの情報を共有しながら、医療機関と連携を取りながら支援していくようにしています。
- 近藤委員 医療対策事業の件ですが、今の時期全国的なメディアでも取り上げられていますとおり、熱中症が増えてきています。救急医学会からも、何度も意見が出ているのですが、WBGTで31℃、乾気温で35℃になると運動は中止ということが救急学会からも警告や意見がでてきているのですが、現状今はこれを越えているのですが、新居浜市の現状を聞いてみると、ずーと運動が続けられています。子どもは、スポーツ指導者に向けてやめるということは言いづらいことですので、学校関係と連携や学校への情報提供が大事になってくると思うのですが、医療的な立場からやめるべきだという提言をする、そういう現状に関して
- 事務局（木戸） 市としてどのように考えているのか聞かせていただきたいのですが、市民への啓発ですとかは、保健センターからですが、各行事につきましては、それぞれの担当課所で判断ということになります。
- 近藤委員 市民全体への啓発といいますか、提言といいますか、もう少し実効的なものでないと、つい先日も小学校1年生の子が校外学習で亡くなったという例もありますから、そういうことが起こってしまっただけでは遅いと思うのですが、他になかなか会議がないと思いますので、市民への啓発をしていただけるよう保健センター事業の中でも重要な項目と考えて啓発をしていただけたらと思います。

- 事務局（木戸）　　そういう視点を踏まえて啓発をしていきたいと思います。
今年から小学校の運動会は、例年暑い時期だったのですが、5月開催になっています。中学校はそのままですが、このような状況が続けば、開催時期の検討をしていくと思います。
- 加藤委員　　真夏の駅伝大会は、時期をかえるか？やめるべきだと思います。主催は、市の教育委員会ですか？医師会からも市からも現実問題をきちんと伝えていくべきだと思います。
- 山内委員長　　去年あたりから気象がかわってきていますので、考えておかないといけませんね。
自殺対策についてですが、13ページの地域自殺対策推進センター連絡会議のところの交付金は何ですか？
- 事務局（渡辺）　　交付金につきましては、資料の9ページの精神保健事業の中の自殺対策事業に係る補助金です。
- 山内委員長　　それでは、次に議題3その他ですが、委員の皆さんから保健センターの事業につきまして、なにか御提案や御意見がありましたら、お願いします。
- 山内委員長　　他に御意見はありませんか？ないようでしたら、時間も参りましたので、以上を持ちまして本日の保健センター運営委員会を閉会します。